

年代別からみた生活環境評価の相違点とその要因に関する研究  
—佐伯市における生活環境・圏域に関する研究 その2—

正会員 ○才木 淳<sup>\*1</sup> 同 佐藤 誠治<sup>\*2</sup> 同 小林 祐司<sup>\*3</sup>  
同 姫野 由香<sup>\*4</sup> 準会員 野口 浩平<sup>\*5</sup> 同 寺田 充伸<sup>\*5</sup>

7.都市計画—4.地区とコミュニティ 都市計画  
都市機能 小規模集落 住民意識 居住環境

1. はじめに

その1では単集計による地域ごとの特徴を把握し、大字単位での生活環境の違いから集落の類型化を行った。そして、総合評価にどのような要因が影響しているのかを因子分析を用いて明らかにした。

本稿では、アンケート集計結果より年代別（20～30歳代、40～50歳代、60歳代以上）からみた生活環境評価の相違点について考察を行い、総合評価にどのような要素が影響しているのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究でも、その1で用いたアンケート調査結果を基に分析を行う。アンケート結果より得られた①地域の環境評価、②現在の生活に関する不満や要望、③定住意向とその理由について、年代別に集計・比較し、相違点を明らかにする。次に、①地域の環境評価において各年代で重回帰分析を行い、どの項目が総合評価に影響を与えているのかを把握し、各年代の生活環境評価の相違点とその要因を明らかにする。

サンプルは回答者で、全952サンプルが得られた。

3. アンケート調査結果

3-1. 地域の生活環境評価について

地域の生活環境についてどのように感じているか、質問16項目と総合評価項目の計17項目において「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらでもない・わからない」、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」の5段階で評価した結果を考察する。考察を行う際、質問項目ごとに数値がマイナスであれば評価が低く、プラスであれば評価が高くなるように-2、-1、0、+1、+2のポイントを与え集計した。

全サンプルを20～30歳代、40～50歳代、60歳代以上の3つの年代に集約し、17項目において各年代の平均値、標準偏差、最大値と最小値の差であるレンジをまとめたものを表1に、17項目における年代別生活環境評価得点レーダーチャートを図1に示す。また、5基盤に集約した結果を表2に、5基盤の生活環境評価得点レーダーチャートを図2に示す。

まず、各年代の共通点について考察する。表1より、すべての年代においてマイナスの評価を示しているのは、「③バスなどの公共交通が少ない ④通勤・通学が不便である ⑥病院などの医療施設に不安がある ⑦老人福祉施設に不安がある ⑧子供の教育に不便や不公平を感じる ⑨生活

表1 年代別5段階評価平均得点 (17項目)

| 5段階評価    |                         | 20～30歳代 | 40～50歳代 | 60歳代以上 | 標準偏差  | レンジ   |
|----------|-------------------------|---------|---------|--------|-------|-------|
| 定住基盤     | ① 道路や上下水道などの基盤整備が不十分である | 0.327   | -0.188  | 0.093  | 0.258 | 0.515 |
|          | ② 道路などの整備が不十分である        | 0.212   | -0.263  | 0.074  | 0.244 | 0.474 |
|          | ③ バスなどの公共交通が少ない         | -0.846  | -0.729  | -0.470 | 0.193 | 0.376 |
|          | ④ 通勤・通学が不便である           | -0.058  | -0.404  | -0.212 | 0.173 | 0.346 |
| 移動基盤     | ⑤ 買い物に不便である             | 0.058   | 0.016   | -0.138 | 0.103 | 0.196 |
|          | ⑥ 病院などの医療施設に不安がある       | -0.519  | -0.580  | -0.268 | 0.165 | 0.312 |
|          | ⑦ 老人福祉施設に不安がある          | -0.077  | -0.157  | -0.191 | 0.058 | 0.114 |
|          | ⑧ 子供の教育に不便や不公平を感じる      | -0.212  | -0.239  | -0.138 | 0.052 | 0.101 |
| 経済基盤     | ⑨ 生活をいくに経済的に厳しい         | -0.442  | -0.737  | -0.662 | 0.153 | 0.295 |
| 環境基盤     | ⑩ 自然環境が良い               | 1.269   | 1.208   | 0.980  | 0.152 | 0.289 |
|          | ⑪ 住み心地が良い               | 0.731   | 0.808   | 0.758  | 0.039 | 0.077 |
|          | ⑫ 地域内のまとまりがある           | 0.173   | 0.345   | 0.454  | 0.142 | 0.281 |
| コミュニティ基盤 | ⑬ 住んでいる人の気質や人情が良い       | 0.500   | 0.549   | 0.634  | 0.068 | 0.134 |
|          | ⑭ 人付き合いに気を使う            | 0.058   | 0.176   | -0.098 | 0.137 | 0.274 |
|          | ⑮ 地域の活動や集会に参加することが楽しい   | -0.462  | -0.051  | 0.172  | 0.321 | 0.634 |
|          | ⑯ 祭り・伝統行事が盛んである         | -0.442  | -0.008  | -0.180 | 0.219 | 0.434 |
|          | ⑰ 総合評価                  | 0.192   | 0.239   | 0.285  | 0.046 | 0.093 |

平を感じる ⑨生活していくのに経済的に厳しい ⑩祭り・伝統行事が盛んである」以上7項目が挙げられる。また、すべての年代においてプラスの評価を示しているのは、「⑩自然環境が良い ⑪住み心地が良い ⑫地域

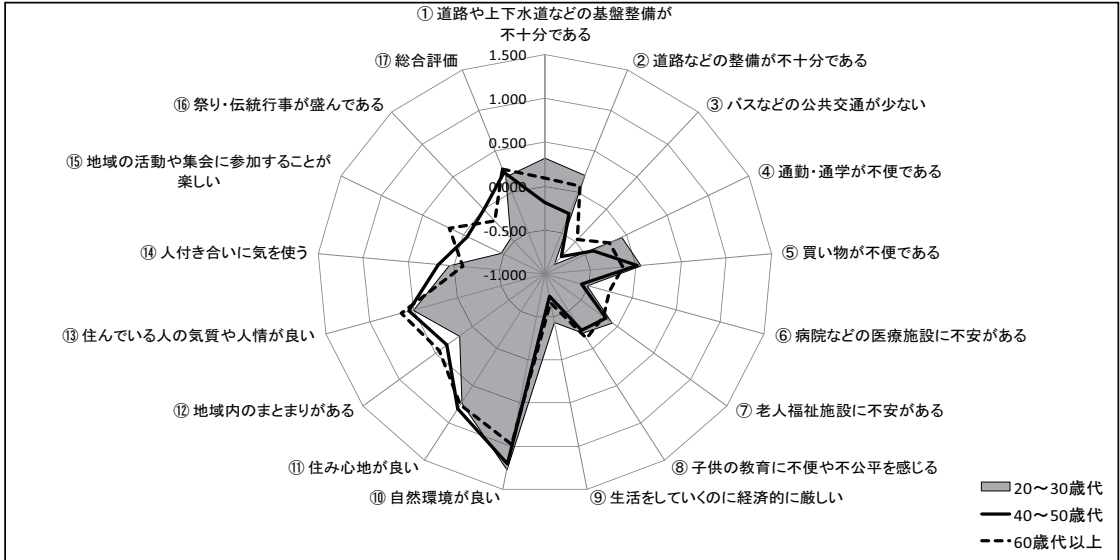


図1 生活環境評価得点レーダーチャート（17項目）

表2 年代別5段階評価平均得点（5基盤）

| 平均評価得点   | 20～30歳代 | 40～50歳代 | 60歳代以上 | 標準偏差  | レンジ   |
|----------|---------|---------|--------|-------|-------|
| 定住基盤     | 0.327   | -0.188  | 0.093  | 0.258 | 0.515 |
| 移動基盤     | -0.206  | -0.337  | -0.192 | 0.080 | 0.145 |
| 経済基盤     | -0.442  | -0.737  | -0.662 | 0.153 | 0.295 |
| 環境基盤     | 1.000   | 1.008   | 0.869  | 0.078 | 0.139 |
| コミュニティ基盤 | -0.035  | 0.202   | 0.197  | 0.135 | 0.237 |
| 総合評価     | 0.192   | 0.239   | 0.285  | 0.046 | 0.093 |

内のまとまりがある ⑬住んでいる人の気質や人情が良い ⑰総合評価」以上5項目が挙げられる。

次に年代別の考察を行う。20～30歳代の特徴としては「①道路や上下水道などの基盤整備が不十分である ②道路などの整備が不十分である ④通勤・通学が不便である」以上3項目が他の年代と比較して評価が高く、「⑫地域内のまとまりがある ⑮地域の活動や集会に参加することが楽しい ⑯祭り・伝統行事が盛んである」以上3項目が他の年代と比較して評価が低い。40～50歳代の特徴としては「①道路や上下水道などの基盤整備が不十分である ②道路などの整備が不十分である ④通勤・通学が不便である」以上3項目が他の年代と比較して評価が低い。60歳代以上の特徴としては「③バスなどの公共交通機関が少ない ⑥病院などの医療施設に不安がある ⑫地域内のまとまりがある ⑬住んでいる人の気質や人情が良い ⑮地域の活動や集会に参加することが楽しい」以上5項目が他の年代と比較して評価が高い。

次に、16項目を5つの基盤に集約して各年代の特徴

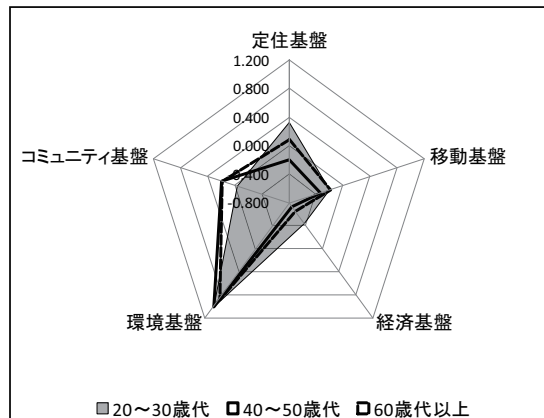


図2 生活環境評価得点レーダーチャート（5基盤）

を把握する。表2より、移動基盤と経済基盤においてはすべての年代で評価が低く、環境基盤においてはすべての年代で評価が高い。また、定住基盤においては40～50歳代で評価が低く、各年代で評価にばらつきがみられる。コミュニティ基盤においては20～30歳代で評価が低い。

地域の生活環境については、各年代で相違点があることが明らかになった。各年代の共通点としては、交通機関や便利施設立地等の評価が低く、地域の環境については評価が高いことが挙げられる。また、20～30歳代は、地域内でのコミュニティ基盤が低いこと、40～50歳代と60歳代以上では比較的類似した環境認識を持っていることが明らかになった。

### 3-2. 現在の生活に関する不満や要望について

ここでは、年代別の生活に関する不満や要望、将来の生活について考察する。表3に集計結果を示す。

まず、各年代の共通点について考察する。すべての年代において最も高い割合を占めているのは「⑦若者や子供を増やしたい」である。「⑤鳥獣被害をどうにかしてほしい」は40～50歳代と60歳代以上で高い割合を占めている。「②買い物が高くできるようにしてほしい」「③病院が近くにできてほしい」は20～30歳代で割合が高く、「⑧道路や上下水道の整備をしてほしい」は40～50歳代で高い割合を占めている。

### 3-3. 定住意向とその理由について

ここでは、年代別の定住意向とその理由について考察を行う。年代別の定住意向の集計結果を表4に、住

表3 現在の生活に関する不満や要望  
(各年代の回答数に対する割合)

| 質問項目                    | 20～30歳代 | 40～50歳代 | 60歳代以上 |
|-------------------------|---------|---------|--------|
| ①ノズの本数を増やしてほしい          | 8.2%    | 7.9%    | 8.2%   |
| ②買い物が高くできるようにしてほしい      | 12.7%   | 8.6%    | 8.3%   |
| ③病院が近くにできてほしい           | 11.2%   | 8.6%    | 8.1%   |
| ④防災のために応急体制の確立をしてほしい    | 4.5%    | 8.5%    | 8.2%   |
| ⑤鳥獣被害をどうにかしてほしい         | 8.2%    | 12.5%   | 16.5%  |
| ⑥宅配サービスをもっと充実してほしい      | 3.0%    | 1.4%    | 1.8%   |
| ⑦若者や子供を増やしたい            | 19.4%   | 15.5%   | 13.4%  |
| ⑧道路や上下水道の整備をしてほしい       | 9.7%    | 11.5%   | 7.6%   |
| ⑨地域のお祭り存続の対策をしてほしい      | 6.0%    | 4.5%    | 4.3%   |
| ⑩田んぼや畑を世話する人がほしい        | 0.0%    | 3.7%    | 4.5%   |
| ⑪使用していない田んぼや畑をどうにかしてほしい | 4.5%    | 7.3%    | 7.8%   |
| ⑫使用されていない建物をどうにかしてほしい   | 7.5%    | 6.6%    | 5.2%   |
| ⑬特に不満はない                | 5.2%    | 3.4%    | 6.0%   |
| 総計                      | 100.0%  | 100.0%  | 100.0% |

表4 定住意向について (各年代の回答数に対する割合)

| 年齢       | 20～30歳代 | 40～50歳代 | 60歳代以上 |
|----------|---------|---------|--------|
| 住み続けたい   | 52.9%   | 74.1%   | 83.3%  |
| 住み続けたくない | 19.6%   | 9.3%    | 7.4%   |
| 分からない    | 27.5%   | 16.6%   | 9.2%   |

表5 住み続けたい理由 (各年代の回答数に対する割合)

| 項目           | 20～30歳代 | 40～50歳代 | 60歳代以上 |
|--------------|---------|---------|--------|
| ①自然が豊か       | 30.6%   | 22.1%   | 23.5%  |
| ②生活するのに便利    | 12.2%   | 10.5%   | 9.6%   |
| ③愛着がある       | 16.3%   | 27.0%   | 27.3%  |
| ④家族と住むため     | 18.4%   | 18.5%   | 10.9%  |
| ⑤親族が近くに住んでいる | 16.3%   | 12.9%   | 13.5%  |
| ⑥近隣のお付き合いがある | 6.1%    | 9.0%    | 15.0%  |

表6 住み続けたくない理由 (各年代の回答数に対する割合)

| 項目           | 20～30歳代 | 40～50歳代 | 60歳代以上 |
|--------------|---------|---------|--------|
| ①生活するのに不便    | 38.5%   | 40.0%   | 29.9%  |
| ②集落内の雰囲気合わない | 23.1%   | 14.3%   | 23.4%  |
| ③子供と一緒に住むため  | 7.7%    | 0.0%    | 5.2%   |
| ④家族形態の変化     | 15.4%   | 8.6%    | 6.5%   |
| ⑤経済的な理由      | 15.4%   | 14.3%   | 6.5%   |
| ⑥病気など体調が不安   | 0.0%    | 20.0%   | 28.6%  |
| ⑦住むことができない   | 0.0%    | 2.9%    | 0.0%   |

み続けたい理由、住み続けたくない理由の集計結果を表5、表6に示す。

まず、定住意向についての共通点としては、すべての年代において住み続けたい割合が5割以上と高い値を示している。また、住み続けたい割合については、年代が高くなるほど割合も高くなり、住み続けたくない・わからない等の割合は、年代が低くなるほど割合が高くなる傾向が読み取れる。

次に住み続けたい理由について、すべての年代で比較的高い割合を示しているのは、「①自然が豊か ③愛着がある ④家族と住むため」の3項目である。その中でも「③愛着がある」は40～50歳代と60歳代以上で比較的高い割合が高く、「④家族と住むため」は20歳代～30歳代と40歳代～50歳代で比較的高い割合を示している。

最後に住み続けたくない理由について、すべての年代で比較的高い割合を示しているのは、「①生活するのに不便 ②集落内の雰囲気が合わない」以上2項目である。「④家族形態の変化」は20～30歳代で比較的高く、「⑤経済的な理由」は20～30歳代と40～50歳代で比較的高い割合が高く、「⑥病気など体調が不安」は40～50歳代と60歳代以上で比較的高い割合を示している。

### 4. 重回帰分析による各年代の特徴把握

ここでは、定住基盤、移動基盤、経済基盤、環境基盤、コミュニティ基盤の5変数を独立変数、総合評価を従属変数として重回帰分析(ステップワイズ法)を行うことにより、総合評価にどの要素が影響しているかを年代別に把握する。重回帰分析の結果を表7に示す。各年代の重相関係数は0.5以上となっている。

コミュニティ基盤は各年代で高い値を示しており、総合評価に最も影響を与えていることがわかる。環境基盤もすべての年代で比較的高い値を示しており、総合評価への影響が比較的高い。40～50歳代と60歳代

表7 重回帰分析の結果

| 質問項目     | 標準化係数   |         |        |
|----------|---------|---------|--------|
|          | 20～30歳代 | 40～50歳代 | 60歳代以上 |
| 定住基盤     |         |         |        |
| 移動基盤     |         | 0.154   | 0.176  |
| 経済基盤     |         |         |        |
| 環境基盤     | 0.236   | 0.183   | 0.174  |
| コミュニティ基盤 | 0.677   | 0.474   | 0.417  |
| 重相関係数R   | 0.792   | 0.622   | 0.576  |
| 調整済みR2乗  | 0.612   | 0.380   | 0.328  |
| 有意確率     | 0.00    | 0.00    | 0.00   |

以上では移動基盤が総合評価に影響を与えている。

## 5. まとめ

本稿では、アンケート集計結果より分析を行い年代別の生活環境評価の相違点とその要因を明らかにした。総括として、地域の生活環境評価、現在の生活に関する不満や要望、定住意向とその理由、重回帰分析の結果について年代別の相違点を表8に示す。

すべての年代に共通することとして、①生活環境に関しては、移動基盤・経済基盤の評価が低く、環境基盤の評価が高い。②若者や子供を増やしたいという要望が多い。③定住意向については、5割以上の人が住み続けたい。④住み続けたい理由として、自然が豊かであるという回答が多い。⑤住み続けたくない理由として、生活するのに不便、雰囲気合わないという回答が多い。⑥総合評価に環境基盤・コミュニティ基盤が影響している等、6つの共通点が挙げられる。

次に、年代間で共通している点についてまとめる。20～30歳代と40～50歳代で共通することとして、①住み続けたい理由として、家族と住むためという回答が多い。②住み続けたくない理由として、経済的に厳しいからという回答が多い等の2つの共通点が挙げら

れる。40～50歳代と60歳代以上の特徴としては、①鳥獣被害に困っているという要望が多い。②住み続けたい理由として、愛着があるという回答が多い。③住み続けたくない理由として、病気など体調が不安であるという回答が多い。④総合評価に移動基盤が影響している等、4つの共通点が挙げられる。40～50歳代と60歳代以上では比較的類似した傾向がある。

年代別の特徴については、20～30歳代では、①地域内コミュニティに関心が薄い。②近くで買い物をしたい、病院が近くに来てほしいという要望が多い。③定住意向に関しては住み続けたくない・わからない、という人の割合が高い。④住み続けたくない理由としては、家族形態の変化という回答が多い等、4つの特徴が挙げられる。40～50歳代では、「①定住基盤の評価が低い。②道路・上下水道の整備をしてほしいという要望が多い等、2つの特徴が挙げられる。

以上の結果より、環境基盤についてはすべての年代で高い評価を示していることから、現状を維持することが望ましい。また、生活環境の改善には地域のコミュニティ基盤を強くすること、公共交通や都市施設等の移動基盤を整備・充足させることが重要であるといえる。

表8 年齢別の相違点

| 年齢別の相違点    | 20～30歳代     | 40～50歳代         | 60歳代以上 |
|------------|-------------|-----------------|--------|
| 生活環境       |             | 定住基盤▼           |        |
|            |             | 移動基盤▼           |        |
|            |             | 経済基盤▼           |        |
|            |             | 環境基盤△           |        |
| 不満や要望      | コミュニティ基盤▼   |                 |        |
|            | 買い物を近くでしたい  |                 |        |
|            | 病院が近くに来てほしい |                 |        |
|            |             | 鳥獣被害に困っている      |        |
| 定住意向       |             | 若者や子供を増やしたい     |        |
|            |             | 道路・上下水道を整備してほしい |        |
|            |             | 住み続けたい          |        |
| 住み続けたい理由   | 住み続けたくない    |                 |        |
|            | わからない       |                 |        |
|            |             | 自然が豊か           |        |
| 住み続けたくない理由 |             | 愛着がある           |        |
|            | 家族と住むため     |                 |        |
|            |             | 生活するのに不便        |        |
|            |             | 雰囲気が合わない        |        |
|            | 家族形態の変化     |                 |        |
| 重回帰分析      |             | 経済的な理由          |        |
|            |             | 病気など体調が不安       |        |
|            |             | 移動基盤            |        |
|            | 環境基盤        |                 |        |
|            | コミュニティ基盤◎   |                 |        |

※生活環境について△は評価値がプラス、▼は評価値がマイナスであることを表す。■は大きな特徴、関係がない項目である。  
※重回帰分析について◎は最も高い影響があることを示す。

\*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

\*2 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士

\*3 大分大学工学部福祉環境工学科・准教授 博士(工学)

\*4 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

\*5 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生

\*1 Graduate Student, Oita Univ.

\*2 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng

\*3 Associate Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng

\*4 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng

\*5 Undergraduate Student, Oita Univ.